
それいけ！カレーパンマン

柳雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

それいけ！カレーパンマン

【Nコード】

N9595N

【作者名】

柳雨

【あらすじ】

今日も町のみんなにおいしいカレーを作るカレーパンマン、最近になりカレーが人気になったはいがカレーパンマンは日々疲れる毎日を送ることになった、そこで『どうすればいいか？』とジャムおじさんに相談しに行くのだった！それいけ！カレーパンマン！

（前書き）

本作はアンパンマンを題材にした二次短編です

本作は激しく下品な描写が多々見られ、またオリジナルキャラも登場します…下品な話が苦手な方や食事中の方は閲覧の際にはくれぐれも御注意して下さい（汗）

「今日も町のみんなに美味しいカレーを食べてもらえたのはいいけど、最近忙しすぎるぜ、ハハ！」

「忙しいと言いつつも笑顔で空を飛びながらパン工場へと帰るカレーパンマン。」

「最近彼が作るカレーの売れ行きが非常に良く、カレー鍋や材料がいくらあっても追いつかないくらいの勢いである。」

「うーん…さすがにオレ一人だけじゃヤバいかも…手が痛くなっただぜ。」

「カレー作りのためか、物を掴む力すら沸かないくらい手が痛くなったカレーパンマンは自分一人では今後のカレー作りは難しいと考えた。」

「そうだ、ジャムおじさんに相談しよう！」

「名案とばかりに他人に頼るカレーパンマンは早速飛行速度を速めてパン工場へと急いだ…。」

「パン工場。」

「なるほど、最近カレーパンマンのカレーは評判も上がってるし、確かに一人だけじゃ大変だねえ…。」

「だろ？だから何とかしてくれよ、ジャムおじさん。」

・ジャムおじさんは『ふむ』と考え込みながら、頭を下げて頼むカレーパンマンのためのアイデアをアレコレ浮かばせる。

「よし、解った、君のお手伝いをしてくれる新しいパン仲間を作ってあげよう。」

「え！？新しい仲間だって！！」

・なんと、ジャムおじさんはカレーパンマンのために彼の仲間を作ると提案したのだ。

「そうと決まったら早速取り掛かるう、君のパートナーに相応しい者を作るから安心しておくれ。」

「うわぁ♪楽しみだな～！ありがとな、ジャムおじさん！！」

・ジャムおじさんはパン作りの作業に取り掛かり、カレーパンマンは彼に御礼を言って完成を待つことにした。

（オレの新しい仲間ってなんだろ？インドカレーパンマンとかキーマカレーパンマンとか？ハヤシライス…は、カレーじゃないか…。）

・どんな仲間が生まれるか今から非常にワクワクしながら、アレコレ想像し、期待に胸を躍らせていた…。

「だが、彼の期待はこの後残酷なまでに裏切られた。

「おい、カレーパンマン、お待たせ、『彼ら』がそつだよ。」

「お？二人も出来たのか！」

「ジャムおじさんの隣にはカレーパンマンと酷似した姿形をした二人の新たなパン仲間がいた。

「紹介しよう、彼らの名は……。」

（ワクワク♪ワクワク♪）

「ジャムおじさんが彼らの名前までキチンと考えててくれたため、カレーパンマンの期待のボルテージはさらに上がる……。」

「ウ。コ味のカレーパンマンとカレー味のウ。コパンマンじゃ。」

・カレーパンマンの希望という名の新築住宅が絶望という名の嵐によつて倒壊した瞬間だった。

「「…。」」

・ちなみにウ。コ味のカレーパンマン（以後、ウ。コカレー）とカレー味のウ。コパンマン（以後、カレーウ。コ）の二人は無言で涙を流していた…恐らく自分達の存在意義について悩み、悲しみ、苦しんでるのだろう。

「おい…お前、ちょっと来い。」

「一口ずつ食わせてやるから。」

「うが！むご！？むぐううううううううう！！」

・当然ながらジャムおじさんは、未だ涙を流しながら怒りに満ちた顔のウ。コカレーとカレーウ。コから制裁を受けたのは言うまでもない…。

「町。」

「ま、まあ…そう落ち込むなよ…同じカレー同士仲良くやるうぜ？
な？な？」

「…オレのはカレー味のウ。コだけどな、既にカレーですらないよ
…。」

「未だに泣く二人を慰めるように勤めるカレーパンマンだがカレー
ウ。コは自分がウ。コであることに強いコンプレックスを持つてる
ようだ。」

「そしてオレはウ。コ味のカレー…カレーって名前だけど味はウ。
コだからね。」

「解った！解った！キリないからもうやめろ！！」

「ウ。コカレーはどうやら見た目がカレーなのに味がウ。コなのに
コンプレックスを持っているようだ…カレーパンマンはもうこれ以
上慰めるのは無意味と判断し、話題を変えた。」

「今日は町の人達にカレーを食わせるのを手伝ってくれ、カレー作
りとかカレー配りとかな。」

「…。」

「だから泣くなつて！解ったら早く準備しろ！」

「カレーパンマンは二人の本来の役割を果たさせるべく、仕事の説
明をするが未だにシクシク泣いていたため、一喝した。」

・そして三人はカレー作りの作業を始める。

「わーい！カレーだー！」

「慌てんなよお前達、ハッハッハ、今作つてやるからな。」

カレーパンマンは笑顔を零しながら子供達にカレーを作る。

「よし、お前らも作れよ。」

「おー。」

ーウ。コカレーとカレーウ。コモカレーを作る……しかしこれが大きな間違いであり、悲劇の引き金だった。

「いったきまーす！」

「町一番のはらぺこなカバ夫が真ッ先にカレーにパクついた時……」

「ん……？何、これ……カレーにしては変な味だけど……」

「あ、それ、オレが作ったウ。コ味のカレーだけど…」

「おえええええええ！？」

・どうやらウ。コカレー作のウ。コカレーだったらしい、カバ夫や他の子供達は一気に吐き出し、ゲロい嘔吐物で地面を汚した。

「じゃ……じゃ……こっちを……う……なんかカレーの味なのに変な触感……」

ああ!？」

「「「ウ。コ味のカレーとカレー味のウ。コだよ。」」

・二つのウ。コ的なアレを食べたばいきんまんはやはり嘔吐した、生き物として当然だろう。

「クソがアアアア!！」

「「ブギアアアア!！」」

・怒り狂ったばいきんまんはUFOからハンマーを出してウ。コカレーとカレーウ。コを叩き潰して殺した。

「ウ。コカレー!カレーウ。コ!！」

・カレーパンマンは仲間を殺され、駆け寄った、普通ならばここでカレーパンマンのカレーを口直しに食べようと奪うだろうが…。

「どうせテメーのもウ。コだろ!いらねーよ、じゃーな!ばいばいきーん!！」

「ちょ…違っツ!！」

・誤解される様な言葉を言い残し、ばいばいきんはサッサと退散してしまっただ…。

「テメーこら!お前もその死んだウ。コの仲間だろ!！」

「ウ。コ野郎は帰れ!！」

「口からウ。コを吐くな！ゲロパンマン！！」

「ウ。コ！ウ。コ！ウ。コ！」

・町中の人達全員がカレーパンマンをウ。コ呼ばわりし、物をぶつけ、罵声を浴びせる。

「てめえらの血は…何色だーッ！！」

「ギャアアアア！？」

・カレーパンマン…否、ウ。コの逆襲が始まった、キレたウ。コはカバ夫やちびぞうにカレーパンチやカレーキックを叩き込んで次々ブチ殺しまくった。

・だが、独壇場もここまでだった。

「何やってんだ！狂ったか！？カレーパンマン！」

「やめなさい！」

「アンパンマン！しょくパンマン！？」

・愛と勇気だけが友達のアンパンマンとキザな詩人なしょくパンマンが飛来してきてカレーパンマンの目の前に立ち、いきなり拳を振るった。

「「ダブルパンチ！！」」

「ぶしッ!!」

・瞬殺…カレーパンマンの事情など一切何も聞かずに、有無も言わずに、ダブルパンチを顔面へかましてカレーパンマンを殺した。

「前から思ってたが口から黄色い汚物を吐くんじゃない。」

「そして前々からそれが黄色いウ。コに見えるらしくてね、キミの処分が決まってたんだよ…そう、最初から仕組まれてたのさ…ジャムおじさんによって…。」

・なんと、二人の口から出た言葉は信じられないものだった。

・パン工場。

「フツ…バカナウ。コだ、仲間を作つてやると言ったらホイホイ引つかかりよったわ…おかげでカレーパンマンを始末する御膳立てが出来たわい。」

・ジャムおじさんはタバコを吹かしながら黒い笑みを浮かべ、笑う…。

・そう…カレーパンマンは、彼のカレーがどうしてもウ。コに見えてしまうというジャムおじさんの実に個人的で身勝手なエゴにより、殺害の口実に彼にふざけた仲間…カレーウ。コとウ。コカレーを生み出したのだ。

・そして彼らがふざけたカレーを作り、町中でひんしゆくを買い、仲間を殺されたカレーパンマンがキレて町で暴れたところにアンパンマンとしくパンマンを投入し、始末させたのだ…まあ、ばいきんまんがあんなウ。コを食べに来たのは全くの計算外だったが…。

・こうして一人の男のエゴによって、カレーパンマンは最後の最後までウ。コという文字通りの『汚名』がついたまま、天命を全うした…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9595n/>

それいけ！カレーパンマン

2010年10月8日14時49分発行